

平成30年度 学校評価 『前期・後期の比較とまとめ』

項目	●色教師アンケート項目 ●色生徒アンケート項目 ●色保護者アンケート項目		■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■そう思わない		肯定否定割合		総合評価	
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)		肯定%	否定%		
Ⅰ 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	72	28	100	0	A	
			87	13	100	0	A	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動にとりこんでいる。	35	58	94	6	B	
			52	48	100	0	A	
	③	目指す生徒像	「よく学び、工夫する生徒」を育成している。	56	44	100	0	A
				67	33	100	0	A
	④		「心豊かで、助け合う生徒」を育成している。	63	38	100	0	A
				77	23	100	0	A
	⑤		「健康で、たくましい生徒」を育成している。	63	38	100	0	A
				73	27	100	0	A
⑥	「意欲を持ち、やり抜く生徒」を育成している。	66	34	100	0	A		
		73	27	100	0	A		
考察	校長の経営方針に基づき、学校教育目標や目指す生徒像に向けて、教育課程全体において先生方が熱心に取り組んでいる。後期においては、学園祭や強歩大会、ふれあい道徳授業公開など大きな行事・多くの行事が催されている。そのため先生方も目標達成のためにより具体的に活動しやすく、①～⑥のすべての評価内容において「そう思う」の割合が高くなっているといえる。							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標達成を意識した行事を教育課程に沿って計画的に仕組んでいく。 ・行事によってとくに成長できる」「自主・自立」に関わる活動を、日常の学校生活の中にも仕組んでいく。 							
評価委員会 意見	①～⑥いずれもの項目においても「そう思う」の割合が高く改善がみられる。特に、①「学校経営方針に基づき、教育活動を行なっている」校については多くの教師が「そう思う」と自己評価しており、認識の共有化がみとめられる。ただ、②「P→D→C→A」の項については、改善されつつも充分とは言えず、一層の改善に取り組みたい。							
Ⅱ 校務分掌について	①	職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっている。	69	31	100	0	A	
			83	17	100	0	A	
	②	自分の分掌と他の人の分掌との関連を考え、相互に連絡・協調している。	72	22	94	6	A	
			77	23	100	0	A	
	③	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。	63	31	94	6	A	
			77	20	97	3	A	
	④	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。	55	42	97	3	A	
			79	21	100	0	A	
	⑤	職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践している。	52	48	100	0	A	
			82	18	100	0	A	
考察	評価内容の①～⑤のすべてにおいて、「そう思う」の割合が高くなっている。各教師が職務内容を理解してきたということもあるが、前期のコミュニケーション不足という反省を十分に踏まえた結果であることが一番であると思われる。学年等の垣根を越えたコミュニケーションがとて増えたと同時に、連絡・調整も的確に行われるようになり、学校運営がとてスムーズになったと思われる。							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる教師ひとり一人のコミュニケーション・学校運営の参画の意識化。 ・管理職、教務主任、生徒指導主事、学年主任間の情報交換のさらなる意識化をする。（運営委員会） ・ミドルリーダーとしての学校運営への参画。 							

評 価 意 見
 学校関係者
 Iの教育目標についてと同様、いずれの項において改善がみられる。特に、④⑤の項については、前期評価でも改善への取り組みを指摘しましたが、後期では大きく改善されており、引き続き改善努力をお願いしたい。

Ⅲ 学習指導・進路指導について

①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	53 68	47 32	100 100	0 0	A A
生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。	63 56	32 37	96 93	4 7	A A
保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。	30 31	52 55	82 85	18 15	B B
②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。	53 55	47 45	100 100	0 0	A A
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	70 65	26 29	96 95	4 5	A A
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	27 28	55 53	82 81	18 19	B B
③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。	40 54	57 46	97 100	3 0	B A
生12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	65 63	31 31	96 94	4 6	A A
保12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	30 30	52 52	81 82	19 18	B B
④	少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を行っている。	34 57	59 43	93 100	7 0	A A
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	70 65	26 29	96 95	4 5	A A
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	27 28	55 53	82 81	18 19	B B
⑤	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。	36 54	61 46	96 100	4 0	B A
生14	先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。	62 62	31 27	93 89	7 11	A A
保14	先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いますか。	34 36	50 53	84 89	16 11	B B
考察	<p>教師による評価において③⑤が前期がB評価であったが、後期はすべてA評価となった。③について、校内研究会がさらに積極的に仕組み、授業にいかされたこと、また⑤においても学力向上を目指した「学び合い」の授業が、より積極的に行われた結果といえる。生徒の評価内容について、前期、後期ともにすべてA評価で、生徒達の満足度や教師との信頼関係が構築されていることがうかがえる。保護者の評価内容においても、前期、後期ともに肯定評価のB評価であり、保護者における満足度や教師との信頼関係も構築されていると考えられる。</p>					
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前の学習会の充実と補習授業等の計画（各学年） ・生徒達からすべてA評価が付いたことはとても素晴らしく、今後も授業づくりを大切に、生徒との信頼関係を深める。 ・今後も授業づくりを大切に、また生徒の良い点を多く見つけて評価に生かし、保護者との信頼関係を築く。 					

⑥	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。		93	7	B	
考察	1年生では「身近な人への職業インタビュー」、2年生では「職場体験」、3年生では「進路選択」が前期アンケート後に実際に行われている結果、数値的に高評価となっている。進路指導は生き方教育である故、各教科・道徳・総合・特別活動において、計画的に横断的に、日常生活において行われるべきであるが、具現化されていないがゆえに「そう思う」という比率が少ないと思える。					
改善	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育において、各教科・道徳・総合・特別活動における横断的な関わりの見直しはもちろん、日常的にキャリア教育の推進を図る。 各学年の取り組みを中心に、PDCAサイクルで工夫改善を行っていく。 					
学校関係者 見評価 委員会 会意	<p>教師評価について、全体的には改善の方向性はみられるが、教師自らの反省を含めて控えめに試行錯誤しながらとりくんでいる姿が見て取れる。今後も教師相互に連携を取りつつ、不断の努力をお願いしたい。</p> <p>生徒評価について、④を除き「そう思う」の割合がいずれも厳しい評価となっている。生徒達からは一定の評価はされつつも、全ての生徒を満足させることの難しさは想像できるが、その現実を直視し、生徒との認識のギャップを埋めるための手立てを模索し、その解消に努めてもらいたい。</p> <p>保護者評価について、いずれも厳しい評価となっている。前期に「保護者への情報提供と対話を粘り強く継続することが、相互の信頼関係に繋がる」と指摘しましたが、そのことを信じて今後も取り組みをお願いしたい。</p>					
IV 生徒指導・ 道徳指導 について	①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。		100	0	A
	生15	先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。		92	8	A
	保15	先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれていると思いますか。		82	18	B
	生16	学級担任の先生には、気軽に何でも相談できますか。		85	15	A
	保16	お子さんは、担任の先生になんでも相談していますか。		58	42	C
	考察	日頃より、実に生徒ひとり一人を大切にしながら対応している教師の姿がうかがえる。それが伝わるかのように生徒達からA評価が付くことができている。生徒⑩の後期はB評価となってしまったが、1・2年生が多少むずかしい時期に来ていることがうかがえる。保⑩についても前期同様高評価となっているが、⑩については残念な結果であり、真摯に受け止めて今後対応を考えていく必要がある。今回は、「わからない部分についてはお子さんに相談して下さい」という一文を加えたこともあり、多少の高評価につながったと考えられるが、質問のあり方を改善する必要がある。				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 今後もひとり一人の生徒を大切にされた対応を続けていく。（生徒理解と生徒情報交換の大切さを全職員が意識化） チームとして対応が必要な場合の組織を強固にする。（学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SC等関係職員） 質問内容の見える化 				
	②	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。		100	0	A
	生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		87	13	A
	保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		81	19	B
考察	今後社会に出る上で、約束や集団としてのルール、マナー等を身に付けることは非常に大切なことである。このことについては先生方もとても重要と考えているとともに、生徒達もその必要性を自覚しているとともに、先生方の指導についてもしっかりと受け止めることができているとうかがえる。保護者にとっては、起床・就寝・食事など、直接見える部分であり、心配している様子がうかがえる。また、そのことは家庭においてしっかりとしつけをしているあらわれであると思える。今後も家庭との連携を図り、生徒の成長を見守っていくことが大切である。					
改善	<ul style="list-style-type: none"> 「あたり前のことをあたり前に」、これまでと同様に基本的な生活習慣やマナー等、全職員で気が付いたことについて指導を継続していく。（生徒指導主事のリーダーシップ） 家庭・地域との連携を図りながら、より生活習慣やマナー等の充実を図る。 					

IV 生徒指導・道徳指導について

③	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。		100	0	A
④	生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。		100	0	A
考察	<p>生15と生16が高評価の通り、生徒ひとり一人の生徒理解に努め、望ましい人間関係を育てようと先生方は特に励んでいる様子がうかがえる。授業や教科外においても細かく指導している姿が見られている。</p> <p>生徒支援委員会において、支援を必要と思われる生徒ひとり一人について、今後どのような指導が適切であるのか、直接かわる先生方へのアドバイスが行われる。また、学校全体としてどのように関わるのか、外部機関を利用してどのように関わるのかなど、チームとしての関わりについても検討されている。</p>				
改善	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援について、先生方が気軽に相談し合えるようコミュニケーションを大切にする。（全職員の意識化・ミドルリーダー） 生徒支援委員会の情報はもちろん、生徒理解を共有できる場を形式にとらわれず気軽に設定（朝礼等） 				
⑤	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳的实践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。		83	17	B
生17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		92	8	A
保17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		86	14	B
考察	<p>中学校では来年度より道徳が「特別の教科 道徳」となる。移行期間ということもあり、先生方も意識して道徳の授業にも取り組んでいる。2学期には「道徳授業公開」を行なっていることもあり、教師において肯定の割合が高くなっている。また、生⑰から、道徳の授業だけでなく、学活やさまざまな行事のたびに、道徳的な心が育つようにと日常的に指導していることがうかがえる。</p>				
改善	<ul style="list-style-type: none"> 来年度からの完全実施に向け、「私たちの道徳」を授業の中で活用する。（道徳主任、各教師の意識化） 各学年ごとに道徳授業内容について情報交換や資料の共同制作を行う。（学年主任・各学年道徳担当） 				
⑥	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。		100	0	A
考察	<p>不登校やいじめは学校が解決しなくてはならない喫緊の課題である。不登校については、特に中1ギャップが多いといわれおり、小中連携（小中での交換会や情報交換）がとても大切であり、多くの機会を設けることが必要である。また、チーム学校と言われるように今後も外部機関（SC、SSW、支援学校等）との連携も大切である。</p> <p>「いじめは絶対にゆるさない」という強い姿勢を先生方は持っており、道徳指導はもちろん、アンテナを高くし、教職員の情報収集と情報交換も頻繁に行われ早期発見・早期対応に努めている。</p>				
改善	<ul style="list-style-type: none"> いじめはどここの学校でも誰にでもおこりえるというスタンスを常に持ち、早期発見・早期対応に努める。（教師の意識化） 新たな不登校を生まないための取り組みを、今後も継続していく。（生徒理解・小中連携・生徒支援委員会等） 				
学校関係者 見評委員会 意見	<p>教師評価の①～⑥について、⑤を除きいずれも高評価になっている。また、前期でも指摘したように、⑤については道徳教育が具体的に明示されていない現状から教師にも戸惑いがあると思われる。</p> <p>生徒評価について、中学生時代は多感な、また心身ともに大きく成長する時期でもあります。その過程の中での指導は難しい面もありますが、生徒はいずれの設問にも道徳に対し肯定的に捉えているように思えます。</p> <p>保護者は自らの評価には甘く、教師に対する評価は厳しくする傾向にあるように思う。もちろん、教師に対する期待の表れでもある。このテーマの解消には「Ⅲ学習指導・進路指導について」の欄でも指摘したとおり、教師と保護者が情報交換と対話を粘り強く重ねることが大事であると思う。</p>				
①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。		100	0	B
②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成就感が満たされる内容を工夫している。		100	0	B
生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。		96	4	A
			94	6	A

V 特別活動について

保18	子供たちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。	40	51	62	91	9	B
		41	52	61	93	7	B
考察	学校の行事について、生徒の評価がAと大変良い結果になっている。生徒会活動や委員会活動、部活動等において、先生方が生徒の自主・自立を育もうとする姿勢がうかがえる。取り組み方においても、リーダーを中心に生徒の考えを大切にしたり、ともに創り上げる過程があるからこそ、満足感があると思われる。また、保護者の方も行事等が、生徒を成長させていることに理解を示してくれていると思われる。教師の評価が前期はBであったが、後期は園祭等の大きな行事の取り組みがあったため、A評価に変わってきた。						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の目的や意義、取り組み方を全職員で共通で確認をする。（各行事ごとにPDCAサイクルにて検証と改善を含む） ・学校での活動の様子が保護者に伝わるよう各種たより、HPの充実に取り組む。（各種たよりの発行者、情報教育主任が声掛けをし、担当が積極的に更新していく） 						
③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。	73	27		100	0	A
		74	22		96	4	A
④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。	57	40	3	97	3	A
		52	48		100	0	A
考察	朝読書は今年で4年目となる活動である。一日の始まりが静かで落ち着いた雰囲気からスタートすることは、授業への集中力の高まりや穏やかな生活につながっていると思われる。後期は、担任はもちろん、管理職やフリーの先生方も生徒達に「本の紹介」を行うなど、全校体制で読書活動を高めることができた。また、後期が行事も多く、委員会としての取り組みも充実した結果となっている。						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間を生徒も教師も全員が本を読む時間にする。（職員の意識化） ・読書内容の工夫と改善。（図書委員会で企画検討し提案する） 						
評価委員会意見	教師には前期での課題解決に向けて果敢に対応していただき、大変改善されてきている。また、生徒評価からもそのことが伺えるので、継続しての取り組みをお願いしたい。						

VI 家庭・地域との連携について

①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。	45	55		100	0	B
		63	37		100	0	A
②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。	30	57	13	87	13	B
		44	41	15	85	15	B
考察	今学期は行事も多く、地域や保護者の方と接する部分が多かった。特に学園祭では多くの保護者の方に参加していただき、ご意見をいただくことができた。また、強歩大会では安全指導に多くの方の御協力をいただき大変感謝している。このように接する場面が多くなったことが、①ではA評価につながったと思える。また、職場体験など地域の協力もいただきながら実施できたことが、②の「そう思う」の高評価につながったと思われる。						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方と意欲的にコミュニケーションを図ろうとする意識改革（職員の意識化） ・地域連携を視野に入れた行事の再検討を行う。（教務主任、生徒会顧問） ・地域コーディネーターとの連携を図り、地域人材の活用（教頭） 						
③	学校・学年・学級たより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。	35	48	13	84	16	B
		39	57	4	96	4	B
生19	学校は、いろんなたよりやホームページなどで、出来事を積極的に連絡し、また公開していると思いますか。	51	31	13	82	18	A
		50	33	11	83	17	A
保19	学校は、各種たよりやホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。	38	51	8	89	11	B
		38	52	7	91	9	B
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信、担任が発行している学級通信、保健だより、図書だより、給食だより、生徒指導通信、HP等多くの情報発信が行われている。しかしこれらの通信やたよりを発行するしないは任意であり、教師の意欲や態度が問われるものでもない。ただし、必要な情報を適切なタイミングで公開することは、学校に課せられた義務であり、このことは常に心掛けなければならない。 後期は行事も多く、情報発信が多かったため、教師や生徒、保護者も高評価を示している。 						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、必要な情報は、適切なタイミングで公開を心掛ける。 ・HPについてはその更新はもちろん、多くの方に認知していただく方策も検討する必要がある。 						
評価委員会意見	生徒の成長を後押しするためには、家庭・地域・学校の相互連携が極めて重要です。特に、学校が孤に陥らないためには、地域や家庭の力が必要である。学校側から積極的に情報発信を行うとともにオープン（CS）な学校運営が大切である。						

Ⅶ自身と職場について

①	学校へ来ることが楽しかった。		91	9	B
			96	4	B
生1	あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。		92	8	A
			91	9	A
保1	お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。		96	4	A
			94	6	A
考察	生徒が元気に楽しく通ってくる学校がなによりも一番である。わかりやすい授業や居心地のよい人間関係、互いに良いところを見つけ認め合える学級集団や学年集団を作り上げているからこそ得られる評価であると思われる。同様に保護者からも高い得られていることはたいへんありがたい評価である。 教師評価も前期に比べ高評価につながりつつある。前期の反省も踏まえ、学校にとっての必要性を自覚したからだと思う。教師が楽しいと感じることが、生徒が楽しいと感じる学校づくりにつながることを今後も意識したい。				
改善	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活においても、ひとり一人の生徒が輝けるような取り組みを行う。（学年、担任、担当） 学年を越えたコミュニケーションを今まで以上に図る。（教師の意識化） 				
②	授業や生徒のことなど、必要な時に職場で話げできた。		94	6	A
			100	0	A
③	子供たちに信頼される教師であった。		90	10	B
			96	4	B
④	教師としての力量を高めることができた。		90	10	B
			100	0	A
⑤	教師集団として、一つにまとまることができた。		84	16	B
			96	4	B
考察	職員室では、生徒の頑張りや心配になる点など、学年を越えて話が飛び交うことも多い。しかし、中学校では教科担任制のため職員が顔をそろえて話ができるのは、部活動後の遅い時間になってしまう。そんな中、生徒の情報交換等に労を惜しまずに取り組んでいる。③④⑤について、後期は肯定評価が増え、高評価になりつつある。後期は行事が多く、充実した取り組みができた成果であると思われる。				
改善	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解のためには日常的な情報交換はとても大切で。気づいたことは学年を越えて今後行う。 今後も教師としての力量を高めるため、専門性や総合的なコミュニケーション能力を高める努力を続ける。 よりレベルの高いものを求める教師集団であるために、常にコミュニケーションと研究と研鑽を続ける。 				
意見 学校関係者	いずれの設問に対しても概ね良好な評価となっているが、③の自己肯定感は幾分改善されているものの、まだ「そう思う」は低位に留まっている。教師と生徒との距離感を縮める努力とともに、誇りのある学校づくりを教師・生徒一丸となって取り組んでいただくことがその解決に繋がると思われる。				
①	学校には、教育活動に必要な施設・設備が整っている		52	48	C
			63	42	C
生②	学校には、学習するのに必要なもの・場所・道具などが整っていると思いますか。		92	8	A
			88	12	A
保②	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。		78	22	C
			87	13	B
考察	施設や設備が古いことは、ある程度は受け入れなければならない現実もある。もちろん、改善のための要求は継続していくが、すぐに改善できるものもあれば、長い年月を要する場合もある。現時点では限られたスペースや施設・設備に手を入れながら、改善改良や対応を探るのが方策と言える。				
改善	それぞれが、それぞれの分掌での必要物品の把握をし、順次整備していくことが望まれる。その際の情報交換を密にしておくことが必要である。				
意見 学校関係者	学校・地域・保護者が一体となって、市への要望を行なうことも大切である。すぐの改善は望めない所もあると思うので、生徒達が安全に有意義な学校生活が送れるように現状の施設をうまく活用した対応をしてもらいたい。				